



音羽工房

1/80 ロングレール輸送チキ5500C編成 エプロン車上回りキット

品番HOP-085

この度は当製品をご購入いただきありがとうございます。

当製品はトラムウェイ製チキ5500ロングレール積載具付をより実車の形状に近づけるキットとなります。なお一部パーツを除きほとんどのパーツは今後発売予定の音羽工房ロングレール輸送チキ5500C編成13車キットの分売品となります。トラムウェイ製専用には設計していないため車体への取り付けは接着が基本となります。予めご了承ください。

キット内容

- ①エプロン車（端末車）積付具 2両分
- ②中央締結車照明器具 1両分
- ③ブレーキ表示器、検査標記板、車票挿し 13両分
- ④標記インレタ 13両分

別紙部品図表を確認し、全てのエッチング板、ロストパーツが封入されているかご確認ください。

トラムウェイ製チキ5500の使用するパーツについて

- ①全車共通
チキ車とチキ車のパーツ（ブレーキなど）は全て使用します。
- ②エプロン車（端末車）2両
積付具のパーツは全て使用せず当キットパーツに置き換えます。
- ③中央締結車 1両
基本的にトラムウェイ製付属パーツを使用し、照明器具のみ尺度が異なるため当キット付属パーツに変更します。
- ④中間車（滑り台のみの車両、及び発電機搭載車）
トラムウェイ製パーツを全てそのまま使用します。

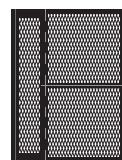
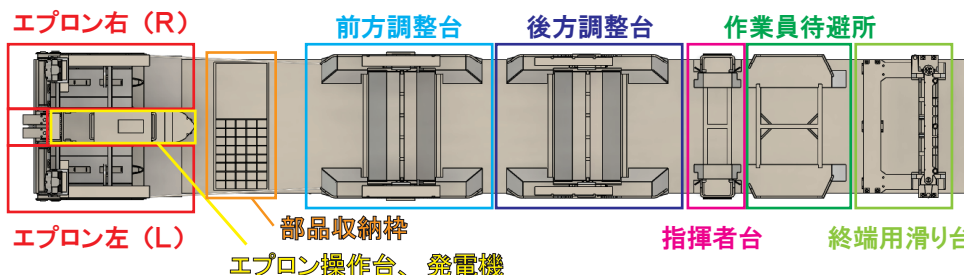
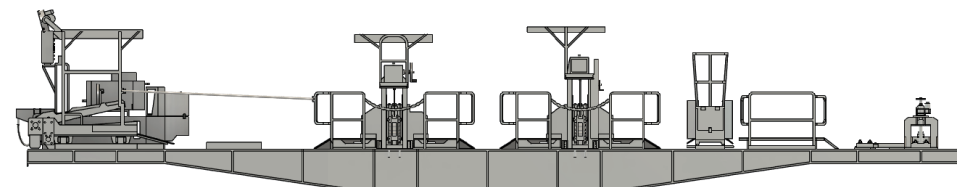
トラムウェイ製チキ5500の加工について（こだわる方向け。全車共通）

- ①検査標記板設置
実車は検査標記板が移設されています。位置は全車共通となります。但しチキ15902、15602、15505の3両は下側が斜めにカットされているタイプのため、B板小付属のパーツを使用します。
- ②車票挿しの移設
実車は全車車体中央位置に移設されていますが、トラムウェイ製では片面のみ中央位置となっています。端寄りの面のモールドを削り、当キット付属パーツ（C33）を車体中央位置に貼りつけます。
- ③チキ15507の後期型化
この車両のみコキ5500後期型からの改造車となっています。不要な縦補強をカットし後期型化しますが、綺麗に仕上げるには難易度の高い作業となります。また天板の穴埋め作業が必要となりますが、トラムウェイ製コキ5500からの改造も推奨です。

キット組み立てに必要な工具につて

- ①はんだごて 60Wこて先ペン先型
はんだごてはgoot (KS60R) や白光 (503) などの60Wペン先型こて先のを基本使用し、ロストパーツなど熱量が必要なパーツのみ100Wの大型こてやマイナスドライバー型のこて先を使用し組み立てます。
通常プラスキットで使用する100Wこてのみでは熱量が多く組立困難ですのでご注意ください。
- ②万力（卓上バイス）
小型のもので大丈夫です。照明器具を折り曲げる際に使用します。
- ③その他
M2タップ、ステンレス線Φ0.5が切断可能なニッパーが必要です。またプラスカッターがあると便利です。他にはマイナス、プラスドライバー、キサゲ刷毛、平棒ヤスリ、バーク板などプラスキットで使用する標準的な工具が揃っていれば問題ありません。

主な組立パーツについて



渡り板
（エプロン車～次号車間に設置）



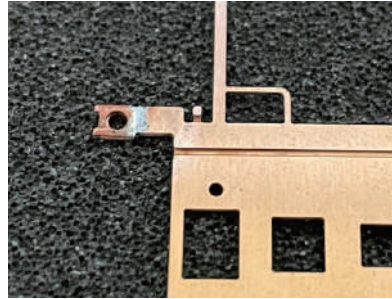
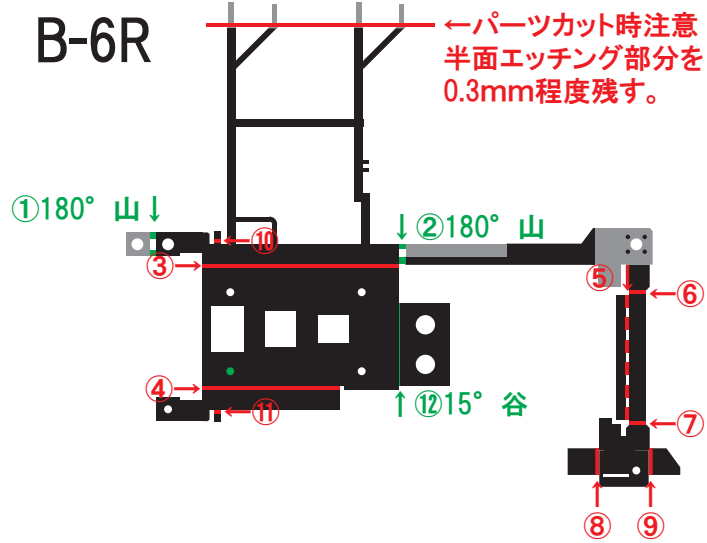
中央締結車用照明

各パーツの使用部品は別紙をご覧ください。

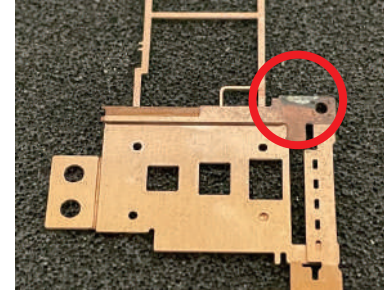
①エプロン右 (左) 組立その1 **赤丸数字**は90° 谷折りです。山折り、特定角度は**緑丸数字**です。

※エプロン右と左は左右対称です。

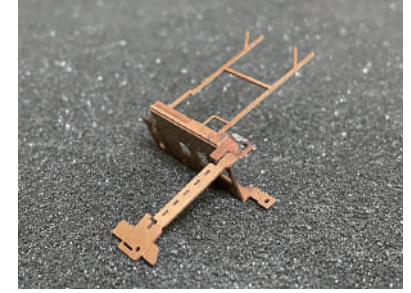
B-6R



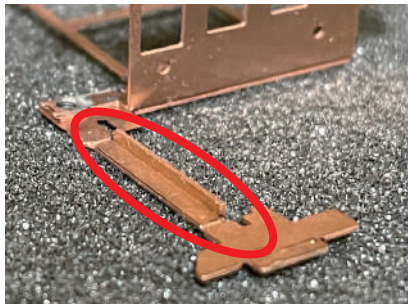
1.①を180° 山折りして内側に重ねてハンダします。



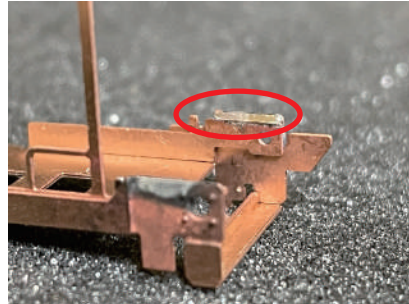
2.②を180° 山折りして外側に重ねてハンダします。(赤丸部分に仮止め)



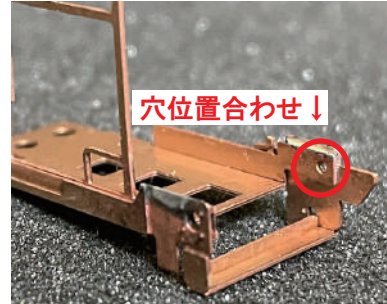
3.③④を曲げます。



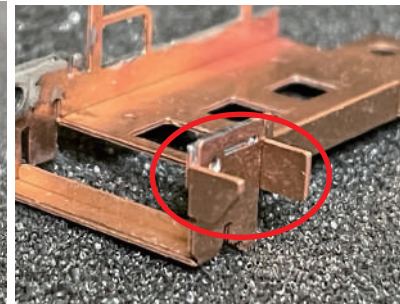
4.⑤部分を曲げます。



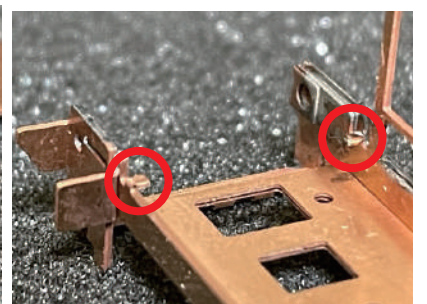
5.⑥→⑦の順に曲げ、赤丸部分にハンダします。この時丸穴の位置を確実に合わせます。正面側面から見て傾きがないかを確認します。



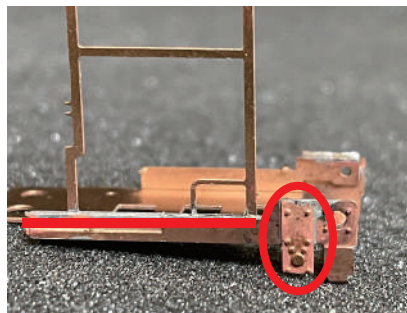
穴位置合わせ ↓



6.⑧⑨を曲げます。



7.⑩⑪を曲げます。



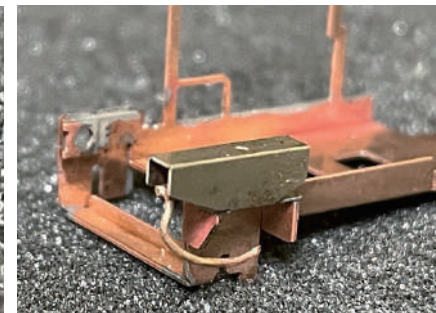
8. 赤線部分にハンダを本流して赤丸部分にB-18を貼り付けます。



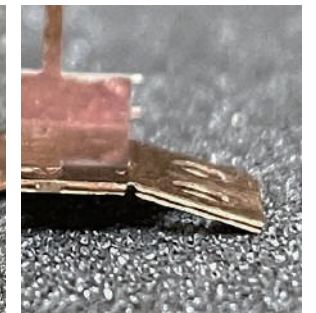
9.C-17Rを3か所90° 谷折りして口の字状にします。



10.O.L-4Rを中に差し込みます。突起が引っ掛かる場合は多少削ります。



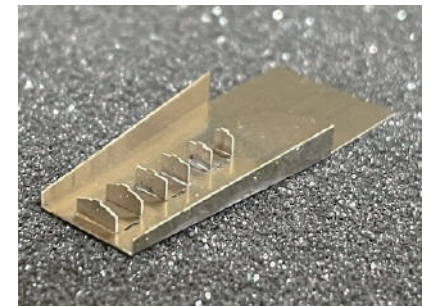
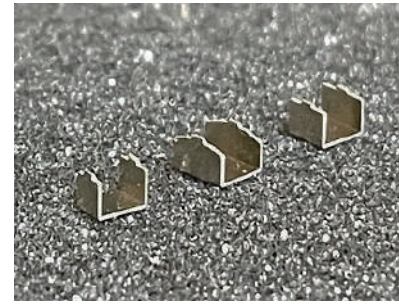
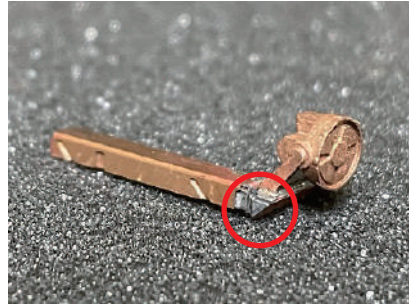
11.B-6RにC-17Rを取り付けます。



12.⑫を15° 程度谷折りします。

①エプロン右（左）組立その2 ※別紙組立図も合わせてご覧下さい。

※エプロン右と左は左右対称です。

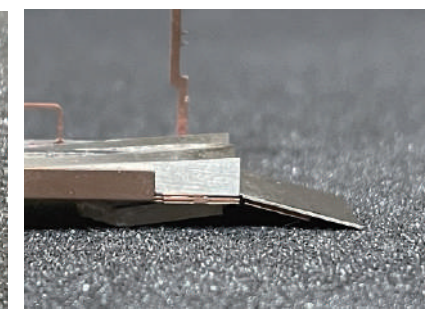
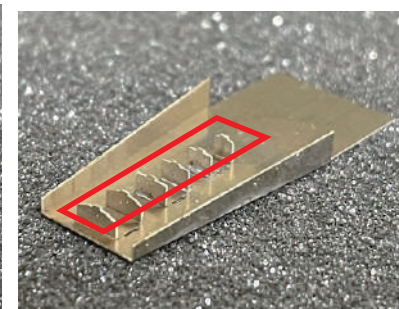
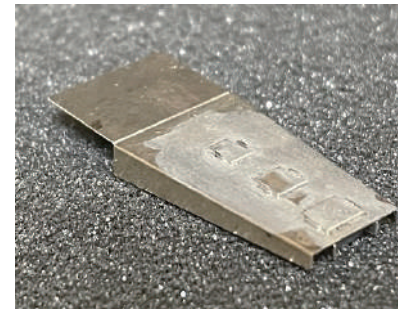
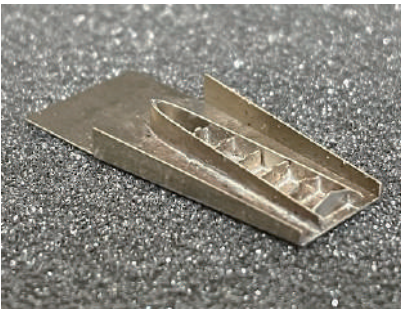
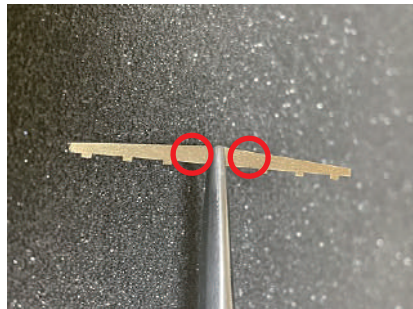


13. B-7R（ハロゲン灯は B-8R）の赤丸部分の折り返しにハンダを流します。この部分のハンダ前は特に弱いので扱いにご注意下さい。ハンダ後、ロスト部品 L-2（ハロゲン灯は L-3）を穴に差し込みハンダします。照明はやや下に向ける角度が正位置です。最後に B-6R の支柱上部を B-7R の溝に合うように重ね接着します。

14. C-4 の両サイドを 90° 谷折りします。

15. C-11、C-12、C-13 の部品をそれぞれ折り線 2 箇所を 90° 谷折りでコの字にします。

16. C-4 に C-11、C-12、C-13 を差し込み裏からハンダを流します。



17. C-14 の中央部をプライヤーで挟み、折り目の無い部分で 20° 程度曲げます。

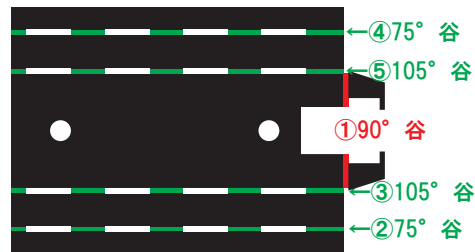
18. C-14 を中央の折り目で 135° 程度曲げ、C-4 穴に差し込みハンダします。この際大型の平こて先を利用し裏面にじっくりこてを当てる事で綺麗にハンダを流すことができます。

19. C-11、C-12、C-13 上部突起に C-15 を重ねハンダします。

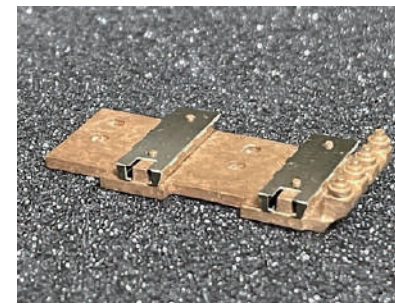
20. C-4 端部を折り線で 15° 程度谷折りします。



C-7 折り曲げ手順



折り曲げ後

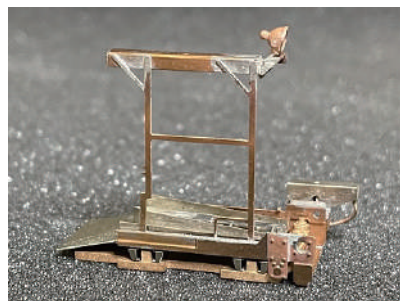


21. C-4 を B-6R 中央に合わせ重ねます。接着は塗装後推奨です。
22. C-7 を上図手順で 2 個折り曲げます。

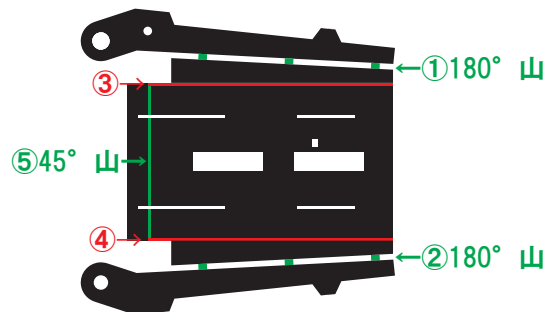
23. L-1R の突起部 4 箇所 C-7 2 個を差し込み接着します。

①エプロン右（左）組立その3 ※別紙組立図も合わせてご覧下さい。

※エプロン右と左は左右対称です。



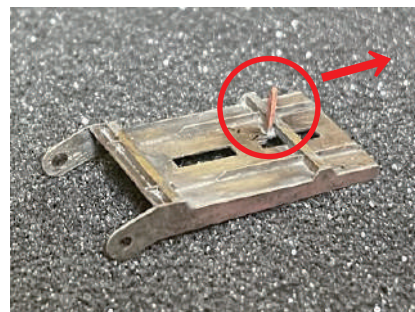
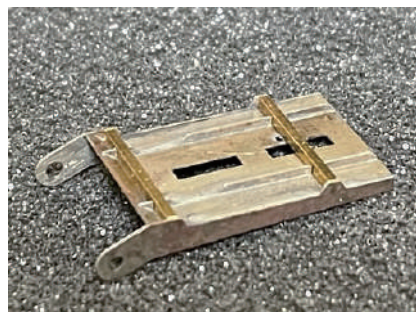
24.L-1RにB-6Rを接着します。接着は塗装後に行います。この時L-1RをB-6Rの穴4箇所差し込みますが、前方中央寄りの穴のみ塞がっていますのでロストL-1R側の突起を多少削って下さい。またロスト製品の個体差により穴の間隔が僅かに合わない場合があります。その場合、B-6R後方側の穴をピンバイスで拡張して下さい。



25.C-5Rを上図の手順で折り曲げます。①、②の山折り後は重ねた部分の隙間に微量のハンダを流して下さい。

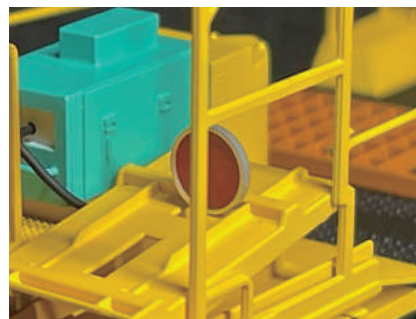


26.C-5RにC-16を2本差し込み裏からハンダを流します。シュートの組み立ては必ずペン先タイプのこて先で作業して下さい。

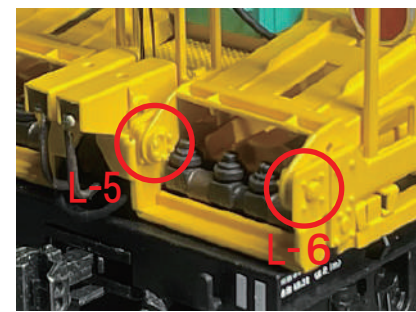


27.C-16の窪み2箇所に付属の真鍮角棒を10.9mmに切断したものを当てはめハンダします。

28.C-5R右上の穴にB-19Rを裏から差し込みます。B-19Rは予め折り曲げ線で90°曲げておきます。C-5Rの長方形の切り欠きが埋まらないよう向きにご注意ください。ハンダ後、赤丸の棒の部分を後ろ側に15°程度倒します。

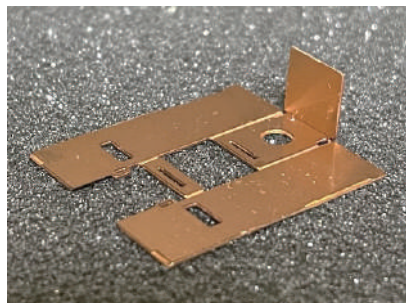


30. 反射板B-26を塗装してシュートの反射板掛けに接着します。なおTOMIX製コキに付属の反射板を使用すると便利です。(画像ではTOMIX製を使用)

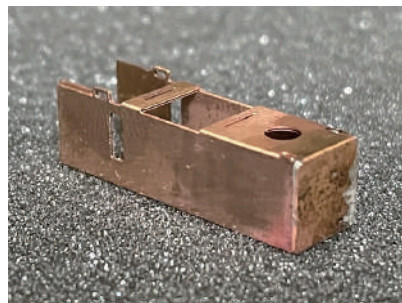


29. この作業は他エプロンパーツを全て塗装後に行います。L-5、L-6を初めに塗装します。この時L-5、L-6はランナーから切り離さないで塗装を推奨します。塗装後L-5は2mm程度、L-6は段差の位置でランナーから切断します。L-6のみ切断面を筆塗で塗装します。B-6RとC-5Rの穴の位置を合わせ、L-5、L-6を内側から差し込んで瞬間接着剤で接着します。この時C-5R(シュート)側のみ接着するようにして下さい。B-6R側に接着しないことによりシュートが回転可能な状態になります。シュートの角度はB-6Rにあるストッパーの角度で調整できます。

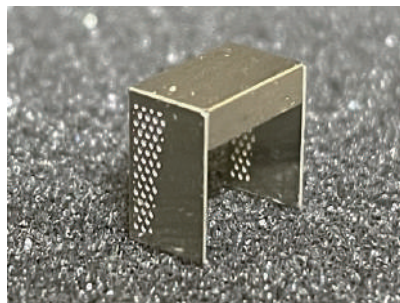
②エプロン操作台組立 ※別紙組立図も合わせてご覧下さい。



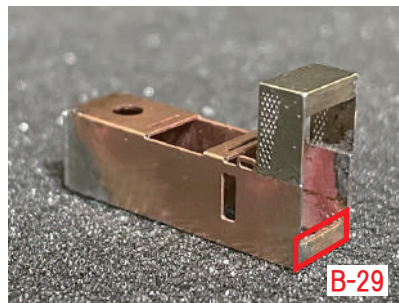
1. B-13の妻面部分を90°谷折りします。



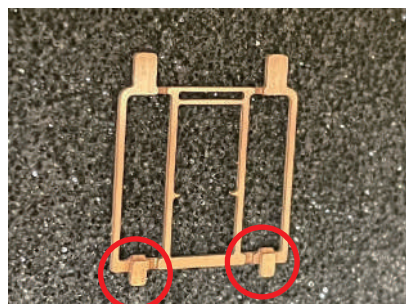
2. B-13側面を両側90°谷折りし



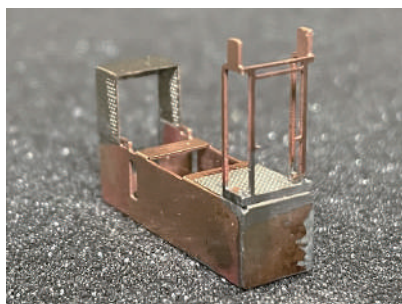
3. C-22を妻面→側面の順で90°ハンダを流して妻面と接着します。谷折りしてハンダを流します。



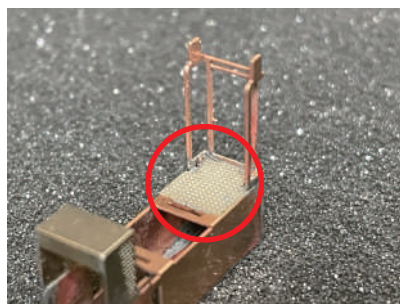
4. C-22をB-13後部に差し込みハンダを流して固定します。またB-29をB-13後部に当てはめハンダします。



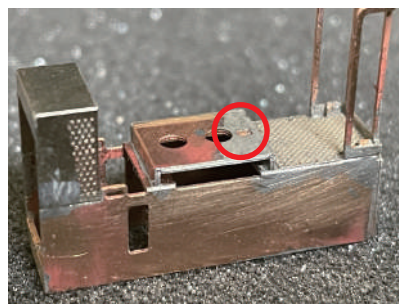
5. B-16のツメ部分を180°山折りします。



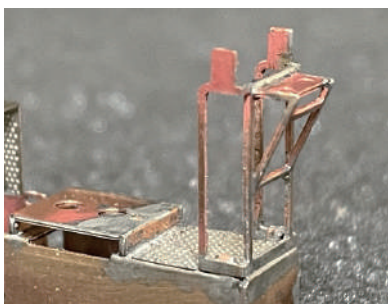
6. B-16を折り線で4箇所90°谷折りしてB-13前方に爪を差し込みハンダします。



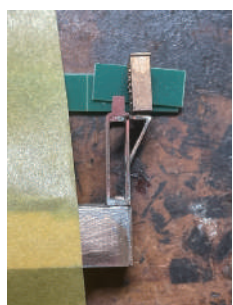
7. C-23をB-13前方に貼付けます。



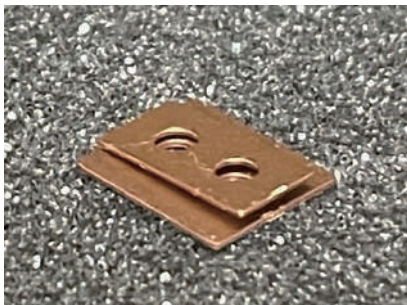
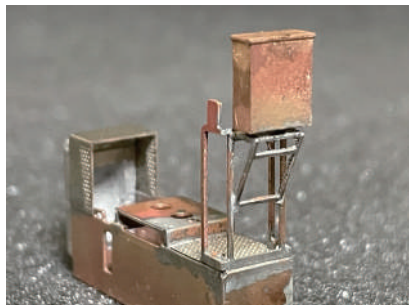
8. B-15を折り線で2箇所90°谷折りしてコノ字にして、B-13の穴に差し込みます。この時「前」標記のある方を前方にします。



9. B-17を折り線で120°程度谷折りし、B-16上部の穴に差し込みハンダします。



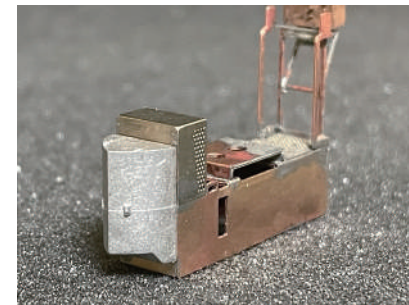
10. L-7をB-17の穴に差し込みハンダします。上下左右を水平にして固定する必要がありますが、横倒しにして高さが合うよう板を敷いた上でハンダすると作業しやすくなります。



11. B-14を折り線で180°山折りしてハンダします。

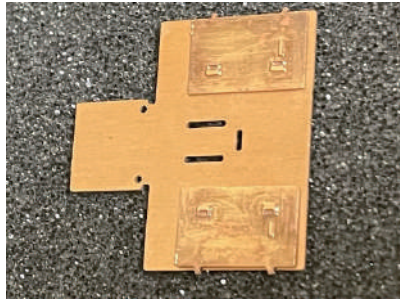


12. B-14をB-13裏側の窪みに当てはめハンダを流します。重ねた部分は背面になるようにします。

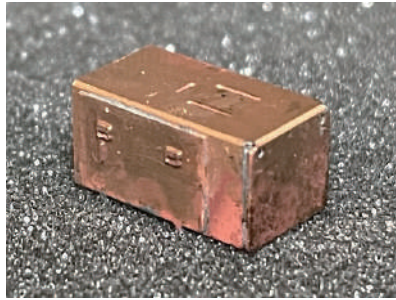


13. W-1をB-13後方に差し込み接着します。(接着剤使用) 一部のりしろ部分干渉があるので削って下さい。

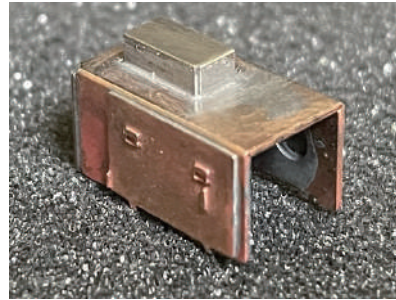
③発電機組立、④部品収納枠組立、⑤指揮者台組立



1.B-11の蓋部分を両側180°山折りして裏からハンダします。



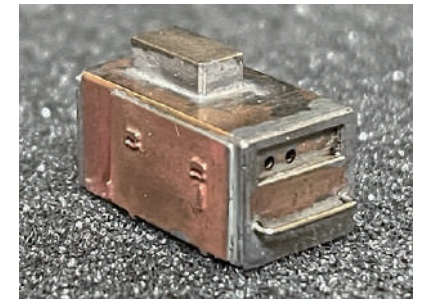
2.B-11を妻面→側面の順で90°谷折りしてハンダで接着します。



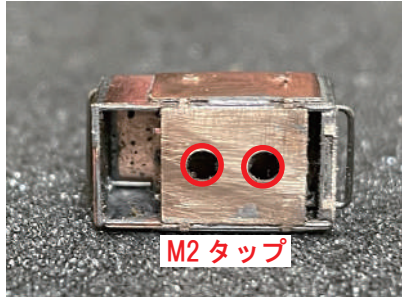
3.C-18を妻面→側面の順で90°谷折りし、B-11天面の穴に差し込みハンダで接着します。



4.B-12を折り線で180°山折りして重ねハンダします。



5.B-12をB-11の妻側に当てはめハンダで接着します。また妻面前後に2箇所穴がありますが、ここに真鍮線0.4mmを適度な長さで曲げ差し込んで接着します。



6.B-14を180°山折りして重ね、ハンダ後にB-11裏面の窪みに当てはめて接着します。2箇所穴にM2のタップを切ります。また仕上げに180°山折りの際のつなぎ部分をカットして整えます。

部品収納枠組立



1.B-28を折り線3か所で90°谷折りして口の字にし、接続部分をハンダします。

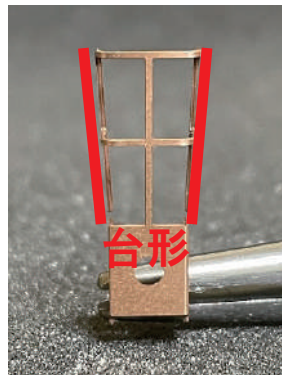
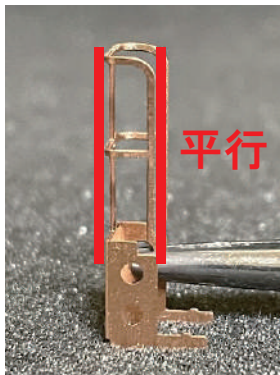


2.B-28を裏返し（溝がある方が裏）して、溝にC-19を8本挿し込みます。



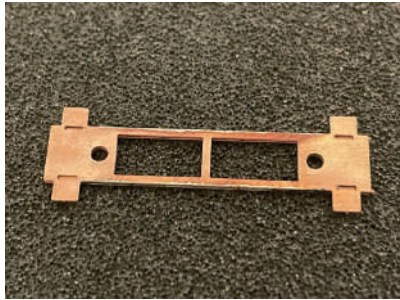
3.C-19の溝にC-20を4本挿し込み接続部に全てハンダを流し固定して完成します。

以下より指揮者台組立



1.B-10の台座側を2箇所90°谷折りし、柵側をB-10ジグで両面挟みます。（B-10ジグはエッチング大判1枚につき1枚のみ付属しますので1枚ずつ切り離して使用します。）プライヤーでがっちり挟み柵の両側を指で台座と同じ方向に90°曲げます。この時曲げ部分を何度か開いて曲げてを繰り返して横から見ると平行に、正面から見ると台形になるようにします。

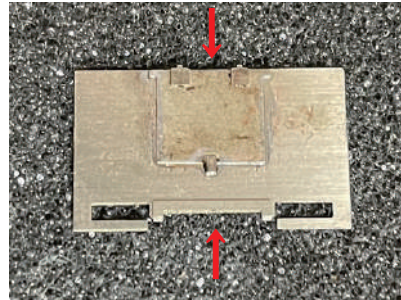
⑤指揮者台組立その2、



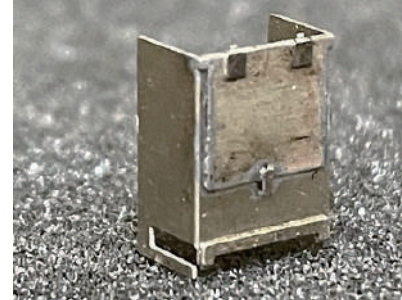
2.B-9を折り線で180°山折りして重ねてハンダします。



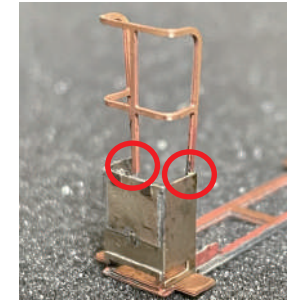
3.B-10をB-9の穴2箇所に通し込みハンダします。



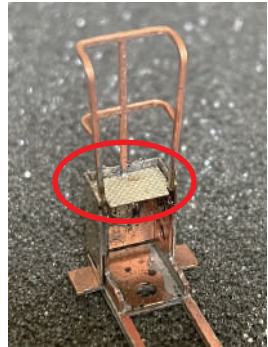
4.C-9の蓋部分と下部を180°山折りし、重ねてハンダします。



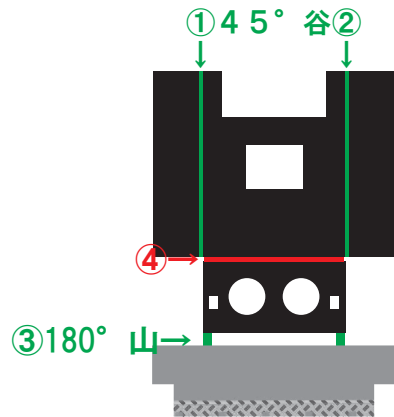
5.C-9を2箇所90°谷折りしてコの字にします。



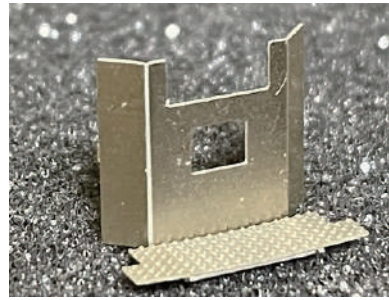
6.C-9をB-10台座部分に重ねて裏からハンダします。この時、途切れている柵部分もC-9にハンダして固定します。



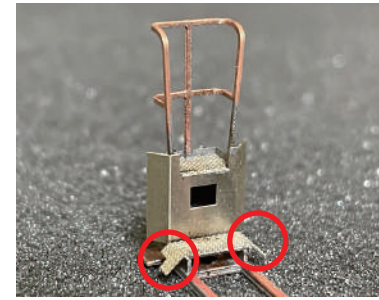
7.C-24をB-10上部に蓋をする形でハンダします。



C-10 折り曲げ手順



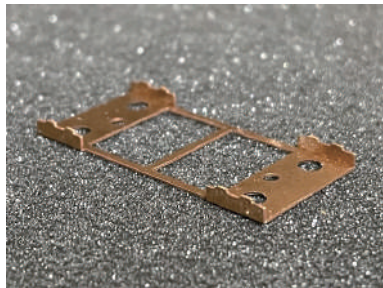
8.C-10を手順に沿って折り曲げます。縞鋼板部分は重ねてハンダします。



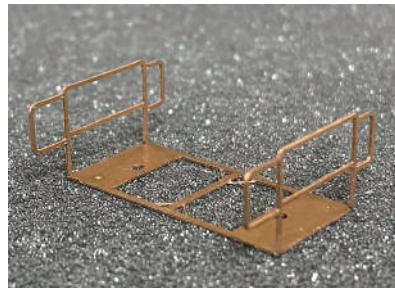
9.C-10をB-10のL字に沿って重ねてハンダします。また縞鋼板のはみでている部分を45°折り曲げます。

1～9の手順を反対側にも行い完成となります。

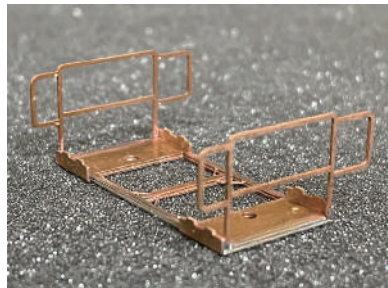
⑥作業員待避所組立
(こて先は大型の平こて推奨)



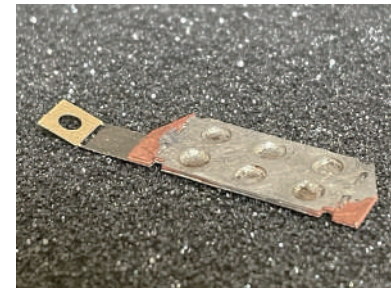
1.B-4の折り線4箇所を90°谷折りします。



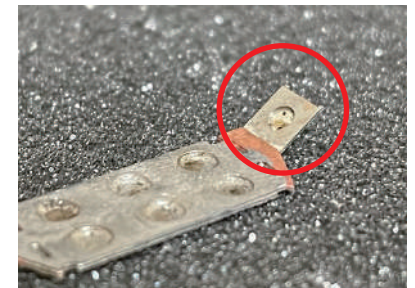
2.B-3の折り線4箇所を90°谷折りします。



3.B-4の上にB-3を重ね、ハンダします。

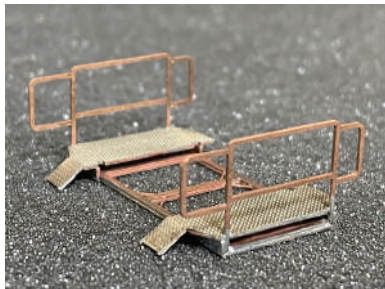


4.C-8R、C-8L裏面にB-5を重ね、ハンダを流します。



5.C-8R(L)の端部の四角形を180°山折りして裏面に重ねます。次工程後30°程度折り曲げます。

⑥作業員待避所組立その2



5.B-5、C-8をB-4に重ねてハンダで固定します。この時部品の向きに注意してください。
(別紙参照)

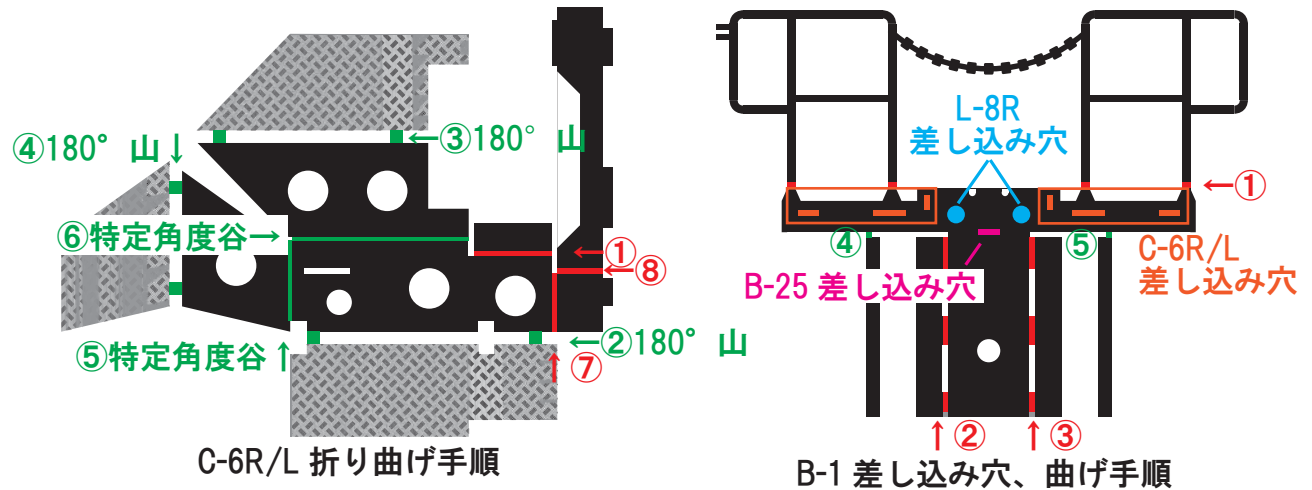


6.B-3手すり部分を曲げます。曲げ角度はC-8の台形角度に合わせます。

⑦前方 / 後方調整台組立

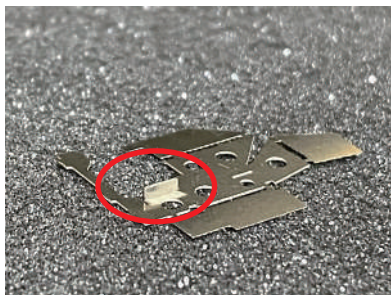
組み立て解説は前方調整台となります。

後方調整台も使用部品が異なるのみで組み立て方法は同一です。

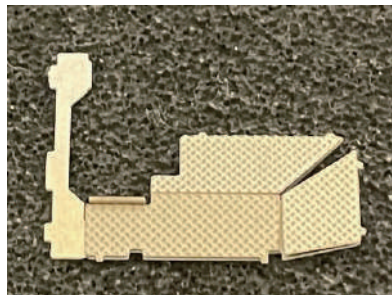


C-6R/L 折り曲げ手順

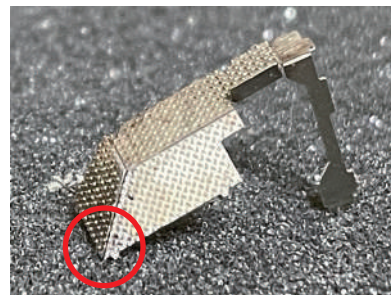
B-1 差し込み穴、曲げ手順



1.C-6①の部分を90°谷折りします。



2.C-6②③④の縞鋼板部分を180°山折りで重ね裏からハンダします。



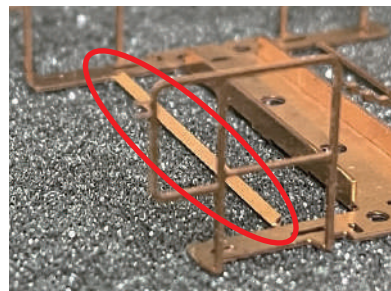
3.C-6④⑤をそれぞれ僅かに谷折りします。この時両方の面の底辺が合う角度まで折ります。



4.C-6⑦→⑧の順で90°谷折りし、穴に差し込みハンダで固定します。



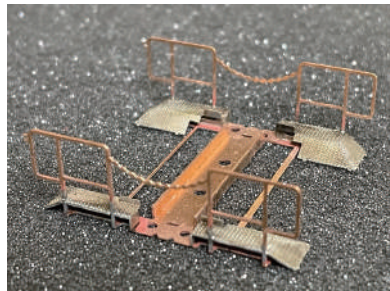
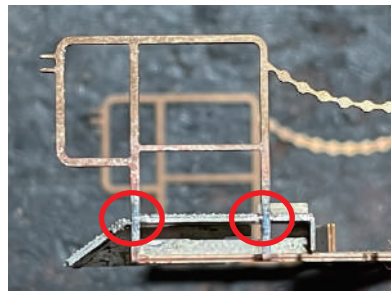
5.B-1の①②③を90°谷折りします。②③はプライヤーで直角に挟み少しずつ曲げます。



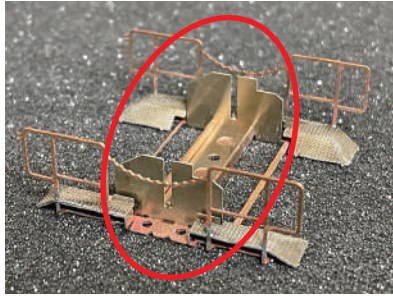
6.B-1の細長い棒部分を2箇所45°起こします。



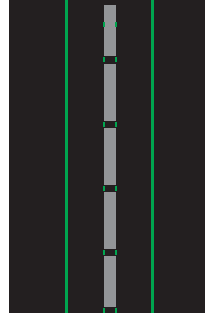
7.B-1にC-6R/Lをセットします。取り付け穴はエッチングの都合により穴は大きいので横2箇所は車体中央側に寄せ、縦1箇所は中央より外側に寄せます。位置が固定したら初めに柵部分の2箇所をハンダで固定します。その後裏面(1枚目画像)の穴にハンダを流して固定します。



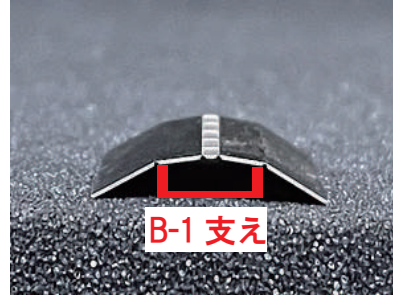
⑦前方 / 後方調整台組立その2



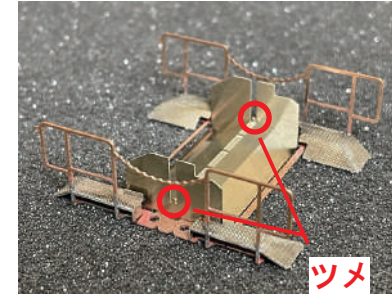
8.C-1 の側面2箇所を折り曲げ、B-1 中央部にセットします。
この時までハンダは行いません。
また C-1 には切り欠きの向きがありますのでご注意ください。



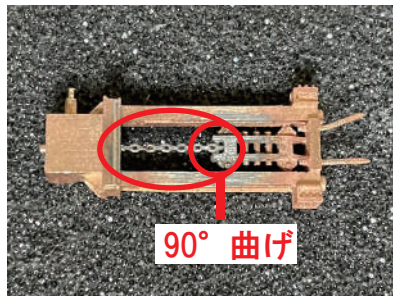
C-3 折り曲げ角度目安



9.C-3 の4箇所を折り曲げます。中央部6°を2箇所、25°を2箇所の順に曲げますが、厳密に角度を数値通りに曲げるのは難しいため画像を参考に大体に角度に曲げ、C-1 の上にセットして底面がB-1 と合うかつB-1 の支えに合う高さになるようにします。

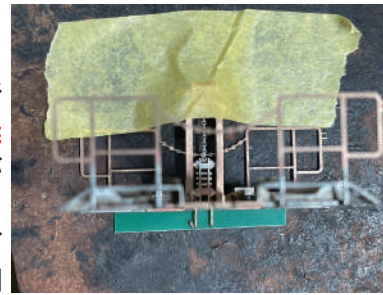


C-1、C-3 固定について
この2部品はそのまま固定すると塗装がし辛いという難点があります。
塗装後 B-1 に接着が推奨ですが、その場合ハンダ付けがやや難しくなります。
どちらかを優先して工程を選択します。
塗装後の場合は C-3 設置後にツメを倒して C-1、C-3 を一緒に外して C-3 裏からハンダを流して C-1 に固定します。
塗装前固定の場合は C-1 を B-1 にハンダしてから C-3 をセットしてからツメを倒して C-3 を固定し裏からハンダを流します。



10.L-8R/L に C-27 を取り付けます。C-27 切り出し時は端から端まで切り出します。

下側に来る側を棒状の部分で90°折り曲げ L-8R に差し込みます。上側は長いので適切な長さに切断します。この作業から平こて推奨ハンダする際は下側をモールドが埋まる程度多めにハンダを盛って固定し、上側もやや多めにハンダを盛って固定してから下側→上側の順で吸い取り線を使用し余分なハンダを取り除きます。

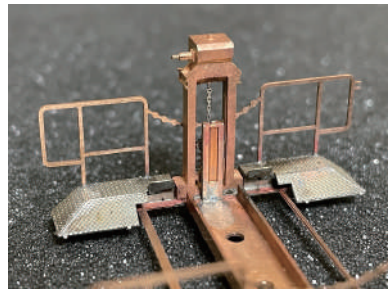


11.L-8R/L を B-1 に差し込み固定します。L-8R/L の取り付け足は B-1 からはみ出ないよ

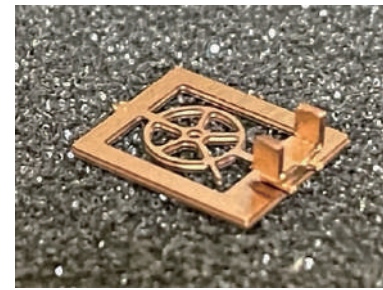
う0.4mmの高さに切断します。L-8R/L は向きがありますのでご注意ください。
差し込み後は裏からハンダを流しますが、横倒しにした後金属板等スペーサーを下側に挟み、直角に立つようにハンダします。



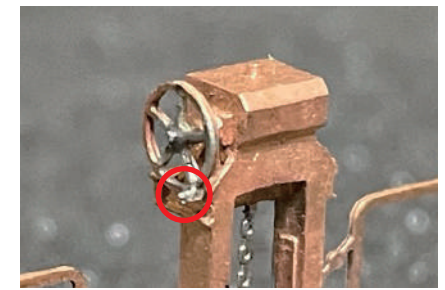
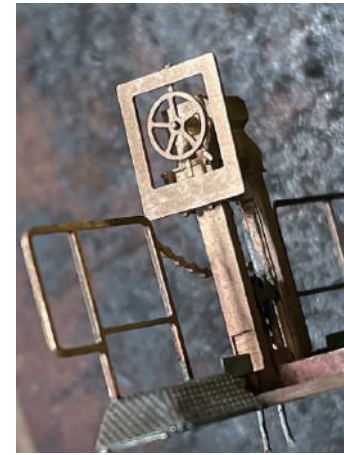
12.B-25 を折り目で180°山折りして重ねハンダします。



13.B-25 を B-1 に差し込みます。溝が細い方が中央寄りです。この時 C-1、C-3 ハンダ済みの場合は B-1 裏からハンダを流して固定しますが、塗装後取り付けの場合は B-1 に差し込んだ状態で上部にのみハンダし C-3 側に固定します。

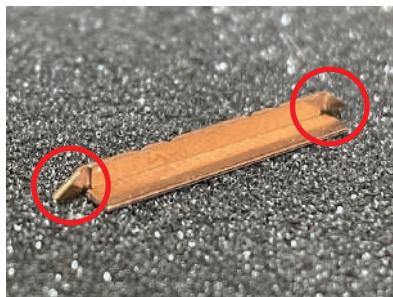


14.B-27 を枠ごと切り出します。枠から飛び出た部分を180°山折→180°山折→左右90°谷折りの順で曲げ画像の状態にします。L-8R/L に B-27 をハンドルに棒を差し込むようセットし、L-8R/L に平行になっている事を確認してハンドル中央にハンダを流します。



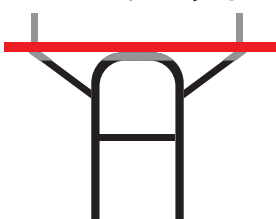
15.ハンドルを枠から切り離し、取っ手部分を90°谷折りしてハンダを流して固定します。

⑦前方 / 後方調整台組立その3

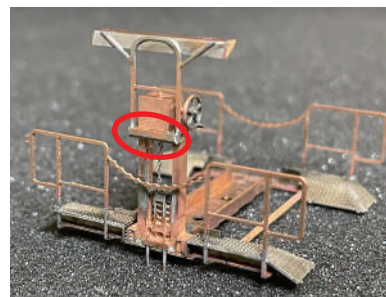


16. B-21 を折り線で 90° 谷折りします。**この折りは万力必須となります。**
また端部 2箇所を 90° 谷折りします。

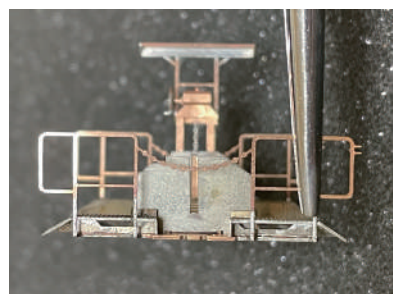
B-20 カットライン



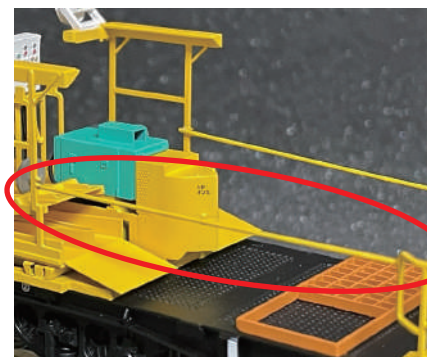
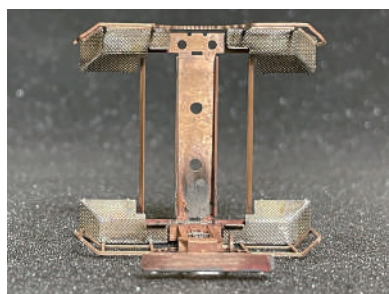
17. B-20 を赤線部分でカットします。ハーフエッチングの必要部を切らないようご注意ください。B-20 の段付き側を B-21 の溝に当てはめハンダを流して固定します。



18. B-20 を L-8R/L に差し込みハンダで固定します。
直角に立つよう気を付けます。



19. B-1 手すり部分をプライヤーで挟み、内側に向かって 30° 程度内側に指で 4箇所それぞれ曲げます。



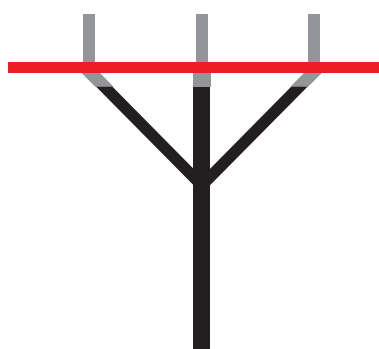
20. B-1 手すりフック部分に棒を取り付けます。(画像は塗装後ですが塗装前にハンダ付け)

棒は付属ステンレス線を使用します。**切断時通常のニッパーでは刃こぼれしますので硬線用をご用意ください。**

棒はエプロン支柱に接続されます。チキ車にエプロン、調整台を積載し、角度や長さを現物合わせで調整します。
ハンダは調整台側のみに行う事が推奨です。

21. 後方調整台の組み立ても前方調整台と同様になります。(使用部品は一部異なりますので、別紙をご確認ください。) 後方調整台では工程 20 の棒取り付けは不要です。

B-22 カットライン

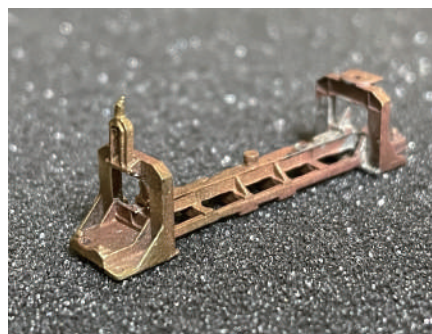


C-25 ハンドル枠
折り曲げ

緑=180° 山折り
赤=90° 谷折り

後方調整台用部品 参考

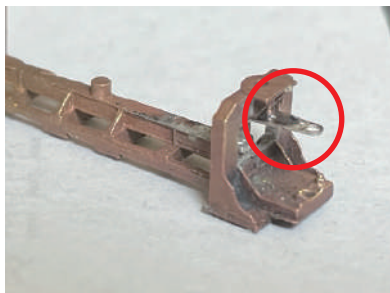
⑧終端用滑り台組立



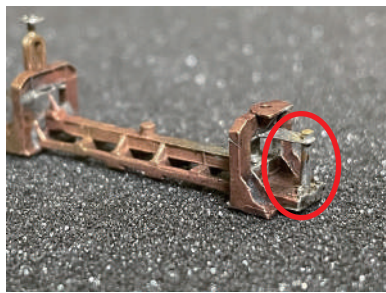
1. L-11 の両端に L-13、L-14 を取り付けます。L-13、L-14 はそれぞれ太い足と細い足が各 2本付いていますが、**太い方は根本から切断し、綺麗にならします。細い方は残します。**(画像は試作品のためありません。)

L-11 への L-13、L-14 取り付けは、双方の接着面にハンダを少し盛っておき、両方の部品を十分に加熱してハンダが溶けた状態にしてくっ付けるとしっかり接着できます。

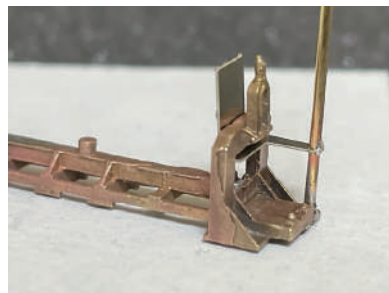
⑧ 終端用滑り台組立その2



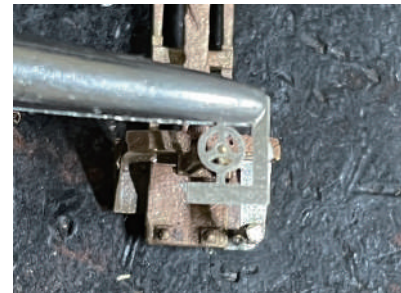
2. C-26 を L-13 に取り付けます。折り線がありますので L 字にしてハンダを行い、取り付け後は折り曲げた部分を切り離します。



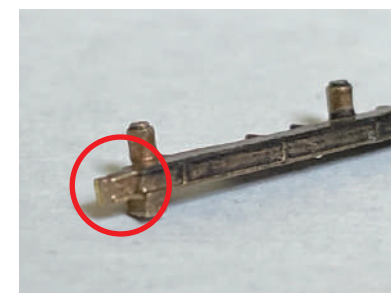
3. C-26 に真鍮線 0.8mm を差し込みハンダ付け、その後 C-26 から 1mm 飛び出た箇所を切断します。



4. 同様に L-14 に C-21 を取り付けます。ハンドルと枠の部分はハンダ付け後に切り離します。

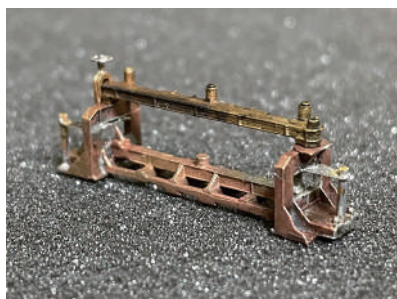


5. L-14 に C-21 ハンドル部分を取り付けます。枠ごとハンドル中央の穴に L-14 頂点を挿し、ハンダ後枠を切り離します。

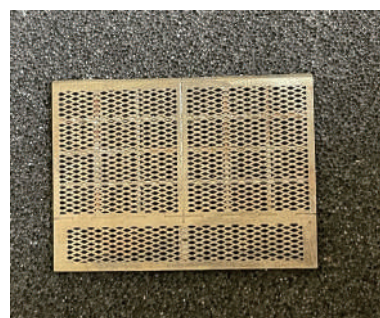


6. L-12 をランナーから切り離します。赤丸の差し込み部分をカットしないようご注意ください。

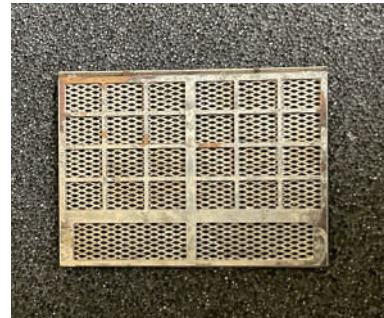
⑨ 渡り板組立



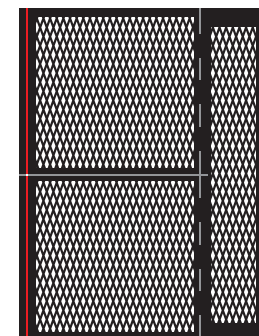
7. L-12 を L-14 に差し込みハンダで固定します。L-13 側裏に突起がありますが、個体差により穴に合わない場合があります。その際は突起をカットして下さい。



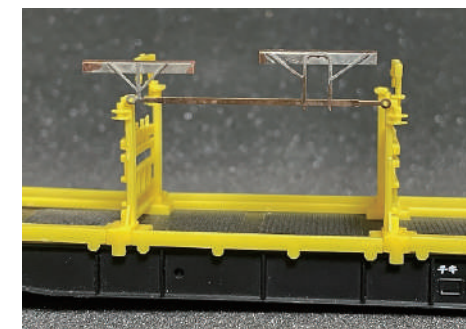
1. B-30 に C-28 を重ねハンダします。なお端部が 1mm 程はみ出ます。この部分は折り曲げできるよう折り線がついていますが、**曲げが大変難しいのでカッターなどで切り離して下さい。** 渡り板はエプロン車と次の車両間に取り付けますが、走行に支障が出る場合がありますので取り付け時にご注意下さい。



⑩ 中央締結車照明組立



↑ カット ↑



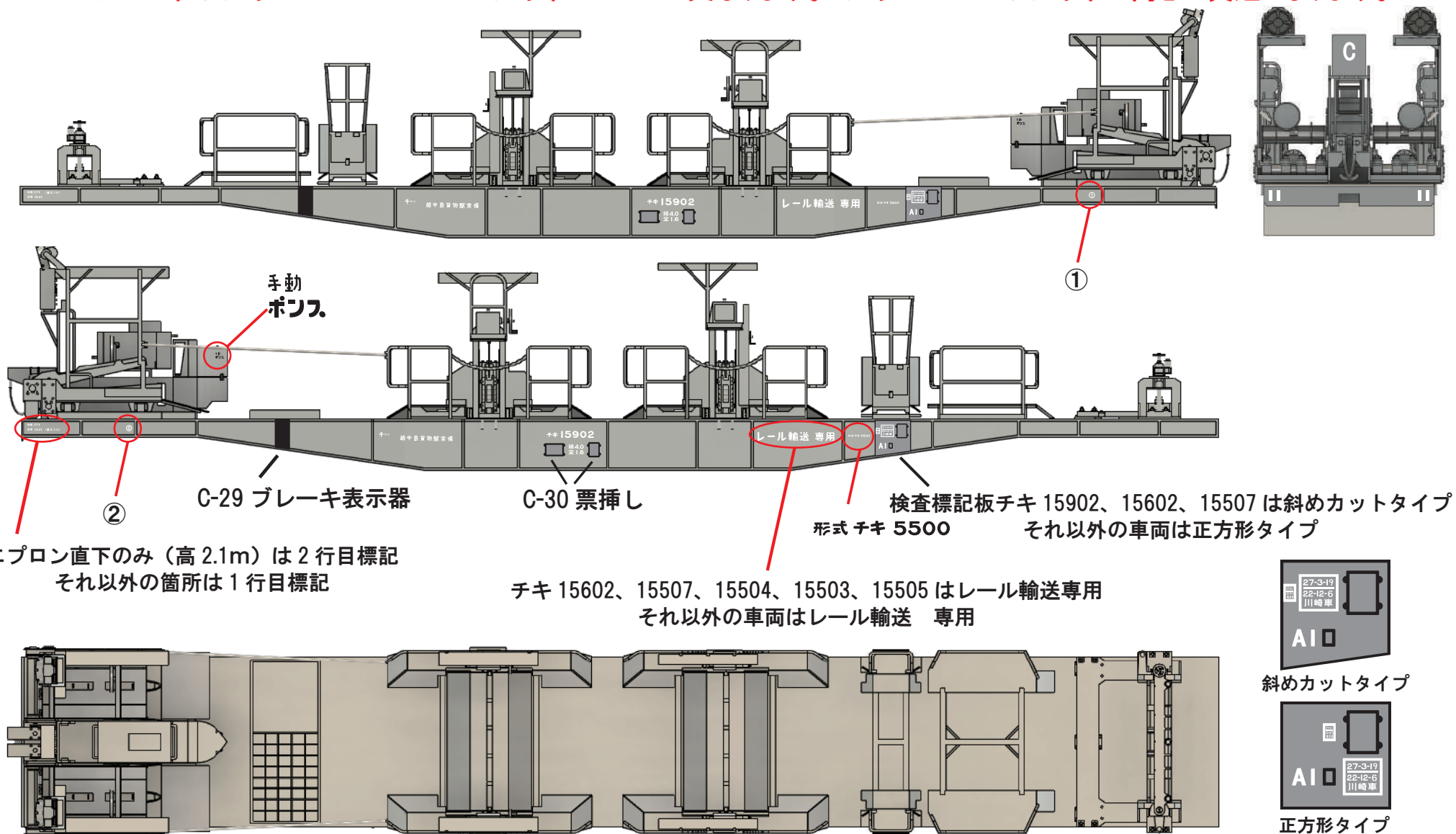
1. B-31 に B-32、B-33 を取り付けます。組み立て方法は調整台の照明パーツと同様です。 ترامウェイ製パーツ 7012F を交換する形で取り付けます。 ترامウェイ製照明パーツは使用しません。

実寸図、インレタ貼付け位置、検査標記板、ブレーキ表示器取付位置

編成図

15901	15506	15601	15501	15505	15701	15801	15503	15504	15507	15502	15602	15902
エプロン車					発電機車	中央締結車			チキ後期型			エプロン車

エプロン車はチキ 15901 と 15902 でチキ車のエンドが異なります。チキ 15902 とはチキ車の向きが真逆となります。



パーツのご請求について

工作ミスによるパーツのご請求には可能な限り対応いたします。

なおエッチングパーツは一部ご対応できない場合もございます。

下記連絡先までご連絡ください。

※商品不具合の場合も同じ連絡先までご連絡ください。

BOOTH 音羽工房 <https://otowa-model.booth.pm>

メールアドレス de103510@gmail.com